

iStorage NS300Ri ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠におそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

◇ Index

- 1) はじめに
- 2) システムROMの機能に関する注意事項
- 3) iLO5の機能に関する注意事項
- 4) OSに関する注意事項
- 5) 全般の機能に関する注意事項
- A) ファームウェア変更に伴う変更点
- B) 誤記訂正

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載のマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」で、「3170102338」を入力して検索してください。

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト <https://jpn.nec.com/esmsm/>

NEC サポートポータル <https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

の最新の情報およびバージョンを確認し、利用してください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

Web サイトに掲載の内容を確認し、バージョン S8.10-006.05 以降を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-006」を検索)

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時などの保守作業において、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせによっては、保守作業に時間を要することがあります。

2) システムROMの機能に関する注意事項

● UEFI Boot Order Control の注意事項

システムROMバージョン3.34の場合、UEFI Boot Order Controlメニュー(*1)で新たなブートデバイスの有効化、または無効化の設定や保存ができません。

詳細は以下のWebサイトを確認してください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109992>

ブートデバイスの起動優先順位を変更する際は、UEFI Boot Orderメニュー(*2)にて行ってください。

また、UEFI Boot OrderメニューまたはUEFI Boot Order Controlメニューに移動するたびに、画面下段にある“Changes Pending”文字列の前に赤い◎が表示されます。

必要に応じて<F10>キーを押下し、設定の保存を行ってください。

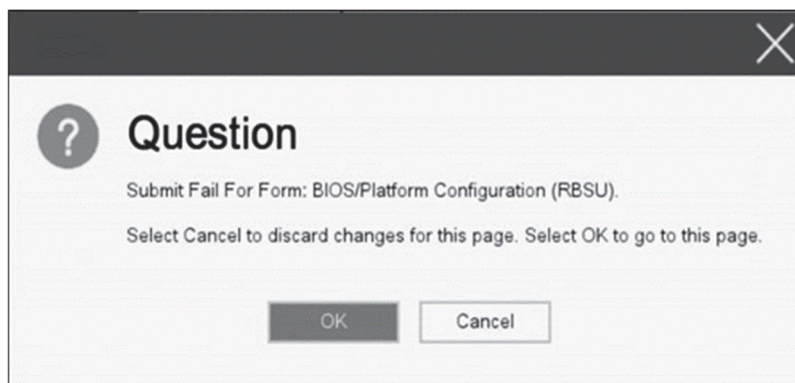
(*1) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order Control

(*2) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order

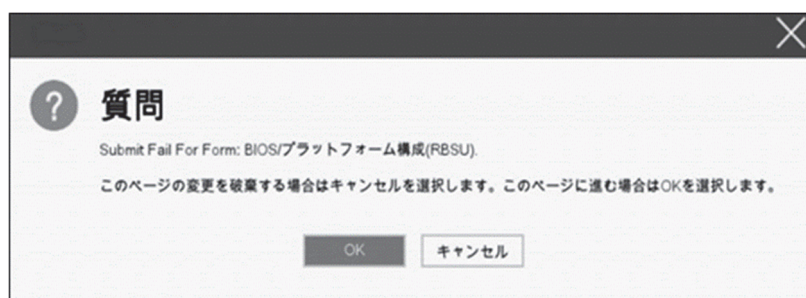
● Submit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップ表示についての注意事項

システムユーティリティにおいて設定の変更中に、次のSubmit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップが表示された場合は、「キャンセル」を選択して変更を破棄してください。

さらに、サーバーの再起動を行ってシステムユーティリティに入り直してから設定の変更を再度行ってください。もし「OK」を押してそのまま設定変更を進めると、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報が消失することがあります。



英語表示の場合



日本語表示の場合

● 「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合、システムメンテナンススイッチのSW6によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。

詳細な手順は、メンテナンスガイド「1章(7.4.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」の項を参照してください。

● シリアルコンソールにPOSTデバッグ情報が出力される件について

システムROMバージョン2.32において、POST実行時、まれにPOSTデバッグ情報がシリアルポートに出力され、POST実行時間がおおよそ2分長くなることがあります。

システムROMバージョン2.34では、この問題が修正されています。

● 赤文字画面 (RSoD : Red Screen of Death) が表示された場合の対処について

装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合や、接続デバイスへのアクセスタイミングにより、OS起動前にまれに赤文字画面 (RSoD) が表示され、本製品の操作ができなくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があり電源オフ、オンによって回復します。

赤文字画面 (RSoD) が表示された場合は、装置電源のオフ、オンを実施してください。

```

X64 Exception Type 0x0E - Page Fault Exception

RCX-0000000000001E0  BX-0000000000001E0  RB-000000000000000  R9-000000000000010
RSP-000000059C711E0  BP-000000059C7123B  AX-000000000000000  BX-000000000000000
R10-000000037FB0790  11-000000059C711AB  12-000000059C7120C  13-000000059C71240
R14-000000059C16724  15-000000059C1E9C9  SI-000000048E69018  DI-000000059C711E0
CR2-000000059C7120C  CR3-000000059BD1000  CR0-00010013  CR4-00000668  CR8-00000000
CS-00000038  DS-00000038  SS-00000038  ES-00000038  RFLAGS-00210206
MSR: 0x1D9 + 00004001, 0x345-0000F4C5, 0x1C9-0000000E

LBRs From To From To
01h 000000059C7120C->0000000538D31AE 000000037FAF807->000000059C7120C
03h 000000037FAF76F->000000037FAF77F 000000059C16737->000000037FAF76C
05h 0000000520EB4DA->000000059C16733 0000000520EB4B7->0000000520EB4C3
07h 000000059C7E0A8->0000000520EB41B 000000059C7E094->000000059C7E098
09h 000000059C7E068->000000059C7E07D 000000059C7E04D->000000059C7E059
0Bh 000000059C7F6E3->000000059C7E034 000000059C7F52C->000000059C7F6CF
0Dh 0000000538D029A->000000059C7F528 0000000538DC0A1->0000000538D029D
0Fh 000000059C72BF0->000000059C7E3D1 0000000538D31B9->0000000538E0A00

CALL ImageBase ImageName+Offset
00h 000000059871000( h)

```

赤文字画面の例

● セキュアブートに失敗した場合、赤文字画面 (RSoD : Red Screen of Death) が表示されることがある

RBSUのAttempt Secure Boot(*)をEnabledに設定している場合、セキュアブート時の署名検証に失敗すると、OS起動前に赤文字画面 (RSoD) が表示され、本製品の操作ができなくなることがあります。

(*) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Secure Boot Settings > Attempt Secure Boot

赤文字画面 (RSoD) が表示された場合、装置の電源をオフ、オンした後に、セキュアブートが失敗する原因 (例: ブートローダ/OSのコンポーネントが古く、現在のセキュアブートポリシーで検証に失敗するなど) を解消してから、ブートデバイスから起動してください。

対処方法の一例として、Attempt Secure BootをDisabledにした後にOS(またはブートローダ/回復環境)を最新の状態に更新し、再度Attempt Secure BootをEnabledに設定後、OSの起動を確認してください。

● Server Configuration Lock (SCL) についての注意事項

- ・ システム運用中は SCL 機能を無効にし、使用しないでください。
- ・ SCL 機能有効時に設定するパスワードは大切に保管してください。SCL のパスワードを紛失した状態で、SCL 機能によりロック (OS ブート前に停止) されると、ロック解除できず、二度とブートできなくなります。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

なお、SCL のパスワードを紛失した場合、SCL のパスワードをクリアする方法はありません。

- ・ 保守を依頼する際は、SCL 機能を無効化していただく必要があります。
- ・ SCL 機能を無効にできない場合、保守は有償にて承ることになります。
- ・ RBSU の「Halt on Server Configuration Lock failure detection.」機能は有効化しないでください。もし有効に設定した場合、SCL 機能が回復不能条件の該当を検出し、ロック (OS ブート前に停止) されてしまうと、システムユーティリティも起動できず、二度とサーバー構成ロックを無効にすることができません。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

SCL 機能の回復不能条件

- ・ RBSU の設定変更によりロックされた場合
- ・ ファームウェア更新によりロックされ、元のファームウェアバージョンに戻すことができない場合
- ・ DIMM、またはPCIオプションカードの故障によりロックされた場合

● RESTfulインターフェースツールによるRBSU設定のバックアップ(保存)とリストア(復元)の注意事項

iLO5ファームウェアバージョン2.40以降の場合、RESTfulインターフェースツールを使用したRBSU設定の保存と復元は使用できません。

RBSU設定の保存と復元は、システムユーティリティのBackup and Restore Settingsメニューから行ってください(メンテナンスガイド(共通編)の「システムユーティリティのRBSU 設定の保存と復元」を参照)。

● フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)の仕様変更について

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)の仕様に変更があります。下記、変更点を記載します。

- ・ CPUあたりDIMM 8枚、もしくはDIMM 12枚以外の構成であっても、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)が使用できる構成であれば、本機は自動的に設定変更し、同機能の使用を始めます。
- ・ 各チャネルあたりのRANK数の合計が2以上になるようにメモリを搭載しなくても、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)は利用できます。

● Extended Memory Testオプションの設定値について

システムROMバージョン2.36の場合、Extended Memory Testオプションは、自動的にDisabledとなります。

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Extended Memory Test

● SW RAID有効時、内蔵DVDドライブ(N8151-137/138)が2個表示される件について

システムROMバージョン2.32未満の場合、Embedded SATA Configuration 設定(*1)を[Smart Array SW RAID Support]設定時、運用環境によりDisk Utilitiesメニュー(*2)に内蔵DVDドライブ情報が2個表示されます。どちらのドライブを選択した場合でも同じ内蔵DVDドライブの情報が参照できます。

(*1) 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Storage Options > SATA Controller Options > Embedded SATA Configuration」

(*2) 「System Configuration > HPE Smart Array S100i SR Gen10 > Disk Utilities」

● iLOイベントログ(IEL)にIPMI Watchdog Timer Timeoutのログが登録される。

システムROMバージョン2.62が適用されている場合、かつIPMI Watchdog Timerオプションを「Disabled(出荷時の設定)」に設定している場合、iLOイベントログに下記のIPMI Watchdog Timer Timeoutが登録されることがあります。

以下の手順を実施することで本問題が解消します。

iLO IPMI Watchdog Timer Timeout: Action: None, TimerUse: 0x44, TimerActions: 0x00

イベントクラス: 0x23

イベントコード: 0xB3

復旧手順:

以下の復旧手順1、または2のどちらかを実施することで、本問題が解消できます。

復旧手順1

- ① 装置の電源をオフにし、電源コードをコンセントから外す。
- ② 30秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続する。

復旧手順2

システムユーティリティより、IPMI Watchdog Timerオプションの設定を2回変更します。

- ① POST中に<F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動する。
- ② System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Availability > IPMI Watchdog Timerオプションを「Enabled」に設定する。
- ③ <F12>キーを押下し、設定を保存してシステムを再起動する。
- ④ POST中に<F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動する。
- ⑤ System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Availability > IPMI Watchdog Timerオプションを「Disabled」に設定する。
- ⑥ <F12>キーを押下し、設定を保存してシステムを再起動する。

● システムユーティリティおよびワнтаイムブートメニューの表示について

- ・ System Information > Processor Information で表示される L2 Cache、L3 Cache の Maximum Size、Installed Size は 1MB を 1048576 バイトに換算した数値で表示されます。
- ・ 以下の発生条件を満たす場合、ワнтаイムブートメニューと RBSU の PCIe Device Configuration メニュー(*) に、RAID コントローラ名が正しく表示されないことがあります。RAID コントローラ名表示のみの問題であり、RAID コントローラに搭載されている HDD/SSD からのブートには影響しません。
(*) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration

【発生条件】

- N8103-189、N8103-190、N8103-191、N8103-192、N8103-193、N8103-194、N8103-195、N8103-196、
N8103-197、N8103-201、N8103-237、N8103-238 の場合
以下 2 つの条件をすべて満たす場合、発生します。
- ・ RAID コントローラファームウェアバージョン 4.11 以降、または 3.01.04.072 以降
 - ・ システム ROM バージョン 2.68 未満

● 工場出荷時の設定について

以下の項目については、工場出荷時に以下のように設定しています。
工場出荷時の設定から変更しないようにしてください。

- ・ System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Workload Profile を「Custom」に設定。
- ・ System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Core C-State を「No C-states」に設定。
- ・ System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Package C-State を「No Package States」に設定。

安定稼働のため、以下の操作後は、再度、上述の項目を設定してください。

- ・ Workload Profile を変更した場合
- ・ EXPRESSBUILDER の First Time Set Up Wizard を実施した場合
(EXPRESSBUILDER 更新時、EXPRESSBUILDER の設定を消去した時)

● ネットワーク PXE ブートでサーバーの操作ができなくなることがある

システム ROM バージョン 3.10 未満の場合、ネットワーク PXE ブートによる OS 起動中に、まれに本製品が応答しなくなることがあります。

この問題が発生した場合、以下 a)、b)、いずれかの手順を実施し、本製品を再起動してください。

- a) POWER スイッチを長押しして本製品の電源をオフにし、その後、POWER スイッチの押下により本製品の電源をオンにしてください。
- b) iLO Web インターフェイスから「電源」>「押し続ける」を選択して本製品の電源をオフにし、その後、「電源」>「瞬間的に押す」を選択して本製品の電源をオンにしてください。

システム ROM バージョン 3.10 では、この問題が修正されています。

● PCIe Slot X MCTP Broadcast Support メニューについて (X は PCIe Slot 番号)

システム ROM バージョン 2.10 以降の装置において、初めて PCIe MCTP Options メニュー(*)を選択した場合、装置のデフォルト設定を強制的に設定する旨のポップアップ(*)が、設定可能な PCIe Slot 数分表示されます。

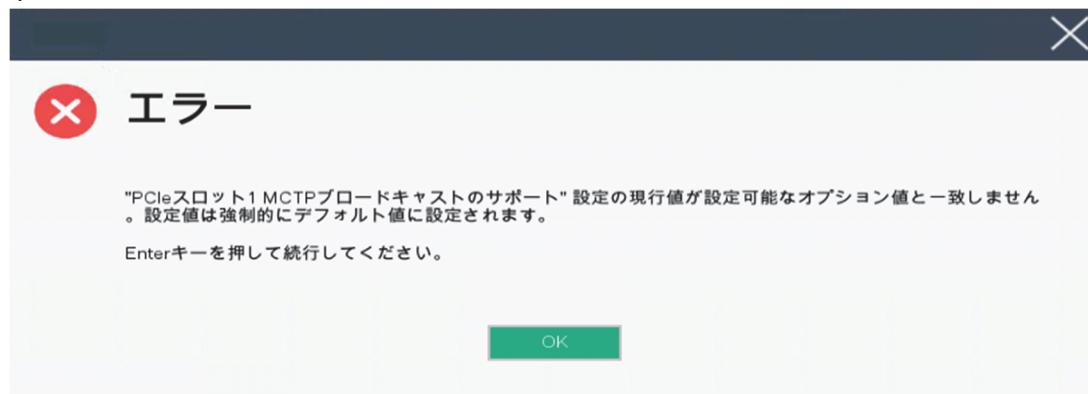
設定を一度保存すると、次回以降ポップアップ表示はされません。

なお、下記システム ROM バージョンの場合、設定保存時にポップアップ(*)が表示され設定は保存されません。保存されないことにより、本メニューを表示させるたびに PCIe Slot 数分のポップアップ(*)が表示されることとなります。この場合、MCTP Broadcast は常に有効で動作します。

- ・ システム ROM バージョン 2.22
- ・ システム ROM バージョン 2.32

(*) : System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe MCTP Options

(*2) :



(*3) :



3) iLO5の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間 (POST実行中も含みます) は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

たとえばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に動作しない場合や、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。また、POST実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェイス: [Information] > [Overview] ページにおけるUUID、UID (論理) が不正な表示になる場合があります。

不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

<対象となるiLOの再起動の方法>

- ・ iLO Webインターフェイスなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- ・ UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

(※) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。


● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] > [Access Settings] > [Update Service] > [Downgrade Policy] の設定を『**Permanently disallow downgrades**』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。

また、本設定は一度設定を行うと永続的に保持されるため、Set to factory defaultsオプションからiLOを出荷時のデフォルト設定に戻しても、その他のiLOの各種インターフェイスや各種ユーティリティから本設定を行っても、『Permanently disallow downgrades』設定は維持されたままになります。

● iLOのセキュリティ機能の注意事項

iLO Webインターフェイスの[Information] > [Security Dashboard]およびiLO Webインターフェイス画面の右上部に  リスクが表示される場合があります。

RBSUの設定やiLOの設定の内容によって、iLOセキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO5ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「iLO Webインターフェイスから[ホスト認証が必要]設定を有効に設定した場合の注意事項」で、確認してください。

iLOの負荷の状態により[Information] > [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインターフェイス画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[Information] > [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● iLO Webインターフェイスから[ホスト認証が必要]設定を有効(※)に設定した場合の注意事項

(※) [Security] > [Access Settings] > [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定しないでください。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・アラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・Starter Pack (Standard Program Package)を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能を利用できません。

- ・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・RAID 通報
- ・サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● iLO WebインターフェイスのUUID不正値表示について

POST実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェイスの[Information] > [Overview]ページのUUID、UUID(論理)の値がまれに不正な表示となることがあります。

不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● Windows上でのvEthernet (Hyper-V Virtual Ethernet Adapter)構成時のiLO WebインターフェイスのネットワークアダプタのIPv6アドレス表示に関する注意事項

iLO5ファームウェアバージョン2.10以降、2.18未満をご使用の場合、Windows OS上でvEthernet (Hyper-V Virtual Ethernet Adapter)が構成されている場合、iLO Webインターフェイスの[Information] > [Network] > [Physical Network Adapters]において、構成されている各[Adapter]の[Network Ports]の”IPv6 Address”において正しいIPv6アドレスが表示されない場合があります。vEthernet構成時のIPv6アドレスに関しては、OS上のネットワークアダプタのプロパティにて確認してください。

● iLO WebインターフェイスのVirtual NIC設定の注意事項

[Security] > [iLO]の“Virtual NIC”のデフォルト値は、iLO5ファームウェアのバージョンにより異なります。BMC構成ユーティリティにて“工場出荷時のデフォルトにセット”を実施した場合は、以下を確認してください。

- ・iLO5ファームウェアバージョン2.10以降、2.18未満をご使用の場合、デフォルト値は『有効(Enabled)』です。
仮想NICをサポートしていないWindows Server 2012 R2やUSB CDC-EEMドライバがインストールされていないWindows Server 2016/2019/2022上のデバイスマネージャーで「Virtual NIC」が警告表示される場合があります。
[Security] > [iLO]の”Virtual NIC”の設定を『無効(Disabled)』に変更してください。
- ・iLO5ファームウェアバージョン1.40以降、1.47未満、もしくは、2.31以降をご使用の場合、デフォルト値は『無効(Disabled)』です。

● iLOの時刻についての注意事項

iLO5ファームウェアバージョン1.45未満でiLOのSNTPの設定が無効の場合、iLOの再起動を行うとiLOの時刻がずれてしまう場合があります。

iLO WebインターフェイスにてSNTPの設定を行い、使用することを推奨します。

iLOのSNTPの設定方法については、iLO5ユーザズガイドを参照してください。

● iLO Webインターフェイスのネットワーク情報の表示について

ファイバーチャネルコントローラーが実装されているシステムで、iLO Webインターフェイスの言語に日本語が選択されている場合、[システム情報] > [ネットワーク]で表示されるファイバーチャネルコントローラーの“ポートのステータス”が『下へ』と表示されます。

これはファイバーチャネルコントローラーの接続が『ダウン』の状態であることを示しますので、読み替えて利用してください。

● ネットワークブリッジ構成時のiLO Webインターフェイスのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成し、iLO5ファームウェアバージョン2.31以降でご使用の場合、iLO Webインターフェイスの[Information] > [Network] > [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにて確認してください。

● iLO Webインターフェイスのストレージ情報に関する注意事項

iLO5ファームウェアバージョン3.00以降の適用装置:

サーバー再起動後に、iLO Webインターフェイスで[システム情報] > [ストレージ]タブをクリックすると、以下のメッセージが表示され、RAIDコントローラやドライブ情報等のストレージ情報が表示されない場合があります。

“Failed to retrieve complete storage device information. Refresh the page in a few minutes.”

上記メッセージがストレージ情報ページに表示された場合、iLOの再起動を行ってください。

● iLO WebインターフェイスのDevice Inventory情報の表示について

<LOMカード(N8104-193/194/195)構成時>

システムROMバージョン2.34未満をご使用の場合、iLO Webインターフェイスの[Information] > [Device Inventory]において、LOMカードの表示情報が以下のように表示される場合がありますが、サーバーの運用およびLOMカードの動作に影響はありません。

- ・ Location : Unspecified
- ・ Firmware Version : N/A
- ・ Status : Unknown

<SASエキスパンダカード(N8116-84)構成時>

iLO5ファームウェアバージョン2.31以降をご使用の場合、iLO Webインターフェイスの[Information] > [Device Inventory]において、SASエキスパンダカードの表示情報が以下のように表示される場合がありますが、サーバーの運用およびSASエキスパンダカードの動作に影響はありません。

- ・ Firmware Version : N/A
- ・ Status : Disabled

● 物理ドライブのステータス変更時のSNMP Trap通知のロケーション情報欠損に関する対処について

物理ドライブのステータス変更時のSNMP Trap通知において、ロケーション情報が欠損する場合があります。

ロケーション情報に関しては、iLO Webインターフェイスの[情報] > [インテグレートドマネジメントログ]で同じイベントのロケーション情報を確認してください。

例:

Abnormal, physical drive status change detection, iLO SNMP Trap, mgr_WIN-U6H1HPNIHQ, uru-rhel83, 192.168.0.57, , 2021/10/01 15:22:57, iLO, 0xc0000be6, “A physical drive status change has been detected. Current status is 3.

(Location: Port 12 Controller: Slot 12)”, “If the physical drive status is ‘failed(3)’, ‘predictiveFailure(4)’,

● iLO Webインターフェイスのセキュリティダッシュボードの注意事項

iLO5ファームウェアバージョン1.45以降、2.10未満をご使用の場合、[Information] > [Security Dashboard]に [Last Firmware Scan Result]が表示されますが、本ハイパーリンクをクリックしないでください。誤ってクリックした場合、Webサイト内のメニュー間移動ができなくなります。その場合、ブラウザのリロードボタンをクリックするか、もしくはいったんiLO Webインターフェイスのログアウトを実行して再度ログインしてください。

情報 - セキュリティダッシュボード

概要 セキュリティダッシュボード セッションリスト iLOイベントログ インテグレートドマネジメントログ

Active Health Systemログ 診断

全体セキュリティステータス: OK

セキュリティ状態: 本番環境
サーバー構成ロック: Disabled

セキュリティパラメーター	↓ステータス	状態	無視
セキュリティオーバーライドスイッチ	OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI over LAN	OK	無効	<input type="checkbox"/>
最小パスワード長	OK	OK	<input type="checkbox"/>
iLO RBSUへのログイン要求	OK	有効	<input type="checkbox"/>
認証失敗ログ	OK	有効	<input type="checkbox"/>
セキュアブート	OK	有効	<input type="checkbox"/>
パスワードの複雑さ	OK	有効	<input type="checkbox"/>
ホスト認証が必要	OK	無効	<input type="checkbox"/>
最新ファームウェアスキャン結果	OK	OK	<input type="checkbox"/>

日本語表示の場合

Information - Security Dashboard

Overview Security Dashboard Session List iLO Event Log Integrated Management Log

Active Health System Log Diagnostics

Overall Security Status : OK

Security State: Production
Server Configuration Lock: Disabled

Security Parameter	↓Status	State	Ignore
Security Override Switch	OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI Over LAN	OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Minimum Password Length	OK	OK	<input type="checkbox"/>
Require Login for iLO RBSU	OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Authentication Failure Logging	OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Secure Boot	OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Password Complexity	OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Require Host Authentication	OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Last Firmware Scan Result	OK	OK	<input type="checkbox"/>

英語表示の場合

● iLO WebインターフェイスのAgentless Management Service (AMS)のステータスについて

iLO Webインターフェイスの[System Information] > [Summary] > [Subsystem and Devices]のAgentless Management Service (AMS)のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLOの再起動を行ってください。また、その後、10分程度経過した後、以下のAgentless Management Service (AMS)の再起動方法の対象OSを参考に、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

< Agentless Management Service (AMS)の再起動方法 >

Windowsの管理ツール > サービス > "Agentless Management Service"を右クリックし、再起動してください。

(※) Agentless Management Service (AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、一部の情報が取得できず、iLO Webインターフェイスの「Host > Hardware > Storage > Storage Controllers」や「Host > Hardware > Network」の情報が正しく表示されません。また、この影響によりESMPRO/ServerManagerによるIML監視やエクスプレス通報などが正しく行えない可能性もあります。

● iLO5ファームウェアバージョン2.65以降の注意点

iLO Webインターフェイスの「システム情報」>「デバイスインベントリ」で Backplane (BP)の位置情報が不正になる場合がありますが表示だけの問題で動作に影響はありません。

正常時) Slot=#:Port=#I:Box=#	※ #は接続先により番号が変わります。
不正時) Slot=#:Port=?I:Box=?	数字の部分が?と表示されます。
または Box=#	Boxのみ表示されます。

● Java IRCのセッションタイムアウト時の表示に関する注意事項

Java統合リモートコンソール (Java IRC) 起動中にリモートコンソールのセッションが切れた場合に、セッションが切れたことを示すポップアップと一緒にセッション切れとは直接関係のない内容のポップアップも表示されます。

Java IRCのセッションが切れた場合には、IRCの下部に以下のメッセージが表示されます。本メッセージが表示されている場合には、表示されているポップアップの内容は無視してください。

“セッションはタイムアウトか認識されないアクセスによって閉じられました。”

● Rapid Setup実行に関する注意事項

iLO5ファームウェアバージョン2.71または2.72の適用装置:

SmartアレイSW RAID構成時に、POST時に<F10>キー押下 > Provisioning > EXPRESSBUILDERからRapid Setupを実行する際は、事前にiLO Webインターフェイスの[System Information] > [Device Inventory]で、Smart Array S100i SRのStatusが” Enabled” になっていることを確認してください。

Statusが” Unknown” と表示されている状態で、Rapid Setupを実行すると推奨されるRAID構成を準備中…” の表示の後に以下のメッセージが表示される場合があります。

“Rapid Setupは、このシステムに設置されているサポート対象ディスクを見つけられませんでした。ディスクが設置されていないか、ケーブル接続などの別の問題があります。Rapid Setupを終了し、ハードウェア構成を確認してください。”

● 通報に関する注意事項

iLO5ファームウェアバージョン3.00以降の適用装置:

ESMPRO/ServerManagerを利用している場合、物理ドライブの状態変化に伴い、アラートビューアにおいて「物理ドライブのステータス変化検出」のアラートが表示されます。

この際、物理ドライブのステータスに応じて、ロケーション情報が次の二パターンのいずれかで表示されます。

- ① (Location: Slot=(A) :Port=(B) :Box=(C) :Bay=(D) Controller: <NULL>)
- ② (Location: Port=(B) :Box=(C) :Bay=(D) Controller: Slot (A))

A: コントローラの位置 (スロット番号)
B: 物理ドライブのポート番号
C: 物理ドライブのボックス番号
D: 物理ドライブのベイ番号

● **サーバー再起動時のFAN高速化に関する注意事項**

iLO5ファームウェアバージョン2.90以降の適用装置:

サーバーの再起動を行うと、まれにFANの高速回転やうなり音が7分以上継続する場合があります。
この場合は、再度サーバーの再起動を実施してください。

● **ネットワークPXEブートでサーバーの操作ができなくなることもある**

システムROMバージョン3.10未満の場合、ネットワークPXEブートによるOS起動中に、まれに本製品が応答しなくなる場合があります。

この問題が発生した場合、以下a)、b)、いずれかの手順を実施し、本製品を再起動してください。

a) POWERスイッチを長押しして本製品の電源をオフにし、その後、POWERスイッチの押下により本製品の電源をオンにしてください。

b) iLO Webインターフェイスから「電源」>「押し続ける」を選択して本製品の電源をオフにし、その後、「電源」>「瞬間的に押す」を選択して本製品の電源をオンにしてください。

システムROMバージョン3.10では、この問題が修正されています。

● **Intelligent Platform Management Interface (IPMI) の暗号化スイートを使用する場合の注意事項**

iLO5は、IPMIの暗号化スイート17をサポートしていません。

ipmitoolユーティリティバージョン1.8.18以降を使用して、インターフェイスを"lanplus"、暗号化スイートを"17"に指定し、IPMIコマンドを実行した場合、以下のエラーが発生し、IPMIコマンド実行が失敗します。

```
Error in open session response message : no matching cipher suite  
Error: Unable to establish IPMI v2 / RMCP+ session.
```

4) OSに関する注意事項

● Windows Server OSご使用時の注意事項

サポート対象の Windows Server OS で USB デバイスをお使いの場合、以下のシステムイベントログが採取されることがあります。

これについては、システム動作上問題ありません。

〈イベントログ〉

ID : 1
 ソース : VDS Basic Provider
 レベル : エラー
 説明 : 予期しないエラーが発生しました。エラーコード:32@01000004

● ESMPRO/ServerManager (Windows版) およびエクスプレス通報サービス (MG) に関する注意事項

本製品の iLO5 ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager (Windows 版) およびエクスプレス通報サービス (MG) のバージョンの組み合わせによっては ESMPRO/ServerManager (Windows 版) および iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。

以下を参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。

各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

・ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) に関する発生現象

iLO ファームウェア	ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)	発生現象
バージョン 2.10 以降	バージョン 6.25 未満	<ul style="list-style-type: none"> 構成タブ - サーバー状態 「SNMP 通報設定」が「取得に失敗しました」と表示される リモート制御タブ > iLO 情報 > IML の表示、IML の保存 IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができない アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに「不明タイプ」のアラートとして表示される
	バージョン 6.47 未満	<ul style="list-style-type: none"> アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは「不明タイプ」のアラートとして表示される

・ ESMPRO/ServerManager Ver. 6 (Windows 版) のアップデート方法

① 以下の Web サイトより最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524>

② 「ESMPRO/ServerManager Ver. 6 インストールガイド (Windows 編)」の「2 章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager をアップデートします。

・ ESMPRO/ServerManager Ver. 7 (Windows 版) へのアップデート方法

① 以下の Web サイトより ESMPRO Platform Management Kit をダウンロードします。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010109532>

ESMPRO/ServerManager Ver. 7 は ESMPRO Platform Management Kit に含まれています。

② ESMPRO Platform Management Kit の ESMPRO インストールツールを起動します。

③ インストールツール画面の説明書をクリックし、Software Manuals から ESMPRO/ServerManager をクリックします。

④ 「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 インストールガイド (Windows 編)」をクリックします。

⑤ 「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 インストールガイド (Windows 編)」の「2 章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager を Ver. 6 から Ver. 7 へアップデートします。

- ・ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイル に関する発生現象
※エクスペレス通報サービス (MG) を利用している方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
バージョン 2.10 以降	ilo_jp.mtb Version 1.4.0 未満 iml_jp.mtb Version 1.5.0 未満 ※iLO 管理機能向け の受信情報設定 ファイルは2種類 あります。	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。 ※受信情報設定ファイルをアップデートした場合であっても、ESMPRO/ServerManager がアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。

- ・ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法

- ① 以下の Web サイトより最新版の受信情報設定ファイル MGMTB.zip をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096>
ilo_jp.mtb、iml_jp.mtb は MGMTB.zip に包含しています。
- ② 「エクスペレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。
- ③ ①でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。
「エクスペレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」は以下の Web サイトからダウンロードしてください。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

- ・ iLO5 ファームウェアのバージョン確認方法

- ・ Server Health Summary で確認する方法

サーバー本体の UID ボタンを押下して、サーバーに接続されたコンソールに表示される iLO5 ファームウェアのバージョンを確認します (Server Health Summary の詳細は iLO5 ユーザーズガイド参照)。

- ・ ネットワーク経由で確認する方法

iLO にネットワーク接続可能な場合、ブラウザから iLO にログインして、メニュー「ファームウェア & OS ソフトウェア」から iLO のバージョンを確認します。

- ・ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のバージョン確認方法

- ① ESMPRO/ServerManager の Web サイトにログインします。
- ② 画面右上の「ESMPRO/ServerManager について」のリンクを選択します。
- ③ 表示される ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を確認します。

- ・ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法

「エクスペレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」の「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

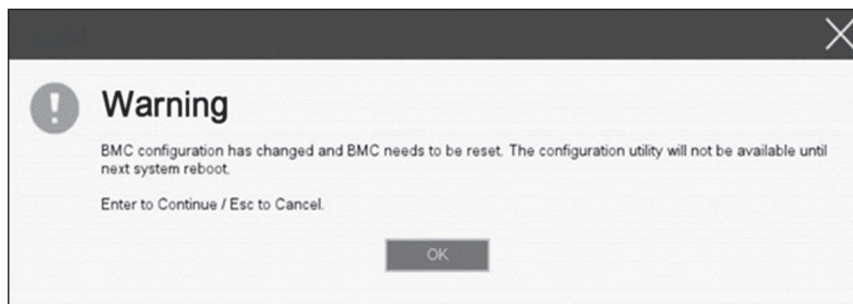
5) 全般の機能に関する注意事項

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

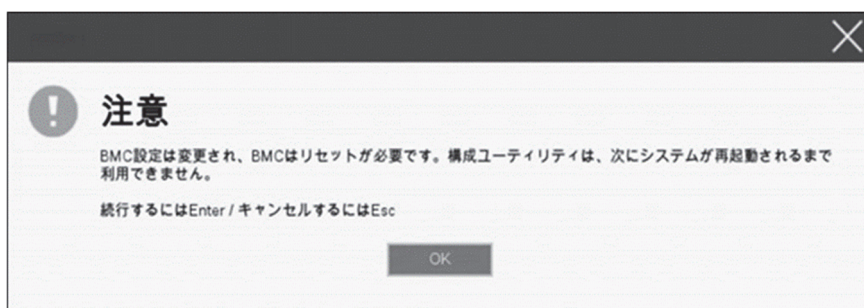
システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の①のポップアップが表示された場合は②以降の手順を厳守してください。

注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止、あるいは、装置に記録されているSerial Number、Product IDの消失が発生する場合があります。

- ① システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLOの再起動を行うために、次のWarning（注意）ポップアップが表示されることがあります。



英語表示の場合

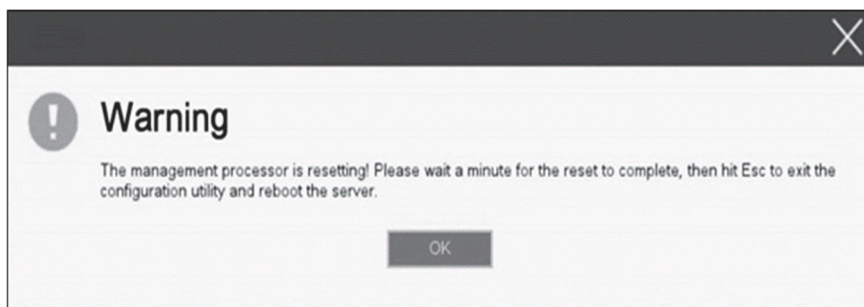


日本語表示の場合

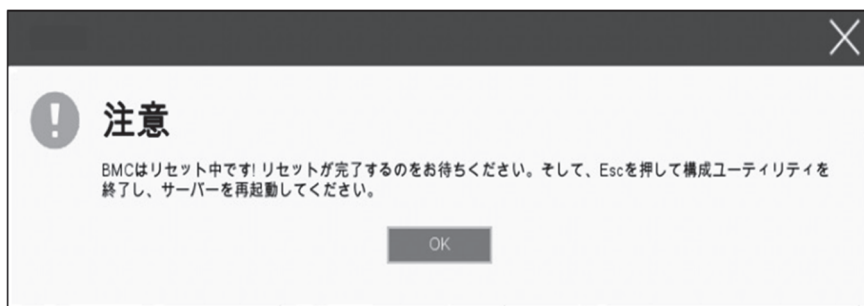
- ② 「OK」を押して進めます。

- ③ 次のWarning（注意）ポップアップが表示されます。

このWarning（注意）ポップアップが表示されている状態にて、**必ず1分以上お待ちください。**その間、何も操作しないでください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- ④ 1分以上経過後、装置前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。

- ・ iLOが再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅（毎秒1回）
- ・ iLOの再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯

- ⑤ ④において、iLOの再起動の完了を確認後、<ESC>キーを複数回押して、システムユーティリティの画面に戻ります。
- ⑥ システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して対象サーバーを再起動します。

● Serial Number、Product ID が消失した場合の対処について

Serial Number、Product IDが消失した場合、以下の手順にて復旧することができます。

- ① 装置の電源をオフにし、電源コードをコンセントから外します。
- ② 30秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続します。
- ③ POWERスイッチで装置の電源をオンにします。
- ④ サーバーが起動し、POST画面が表示されます。
- ⑤ <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。もし、システムユーティリティが起動できない状態になっている場合は、メンテナンスガイドの「1章(7.4.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」を参照し、システムメンテナンススイッチを操作して、RBSU設定の初期化をします。
- ⑥ システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、Serial NumberとProduct IDの値を確認します。
- ⑦ Serial NumberとProduct IDの値が期待する値の場合は、手順⑭に進みます。
- ⑧ Serial NumberとProduct IDの値が期待する値ではない(消失している)場合は、システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options」を選択します。
- ⑨ 「Restore Default Manufacturing Settings」を選択します。
- ⑩ 「Yes, restore the default settings.」を選択します。
- ⑪ 自動的に装置が再起動し、POST画面が表示されます。
- ⑫ <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
- ⑬ 装置のスライドタグに記載されているSerial NumberとProduct IDをシステムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、設定します。



【重要】Product IDとは、『NF8100-255Y』のような型番のことです。

- ⑭ RBSU設定項目をデフォルト値から変更されている場合は、そのRBSU項目の確認と再設定をします。

● UPS 接続時の注意事項

UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を無効「Disabled」にしてください。

- ① System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port を「Disabled」に設定してください。
- ② System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status を「Disabled」に設定してください。

● N8103-184 SAS コントローラご使用時の注意事項

N8103-184 SASコントローラを使用する場合、iLO Webインターフェイスの[System Information] > [Storage] > [Storage Controller]のStatusが“不明(Unknown)”と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● 冷却設定の変更について

以下のオプションを搭載する場合は、安定稼働のため本製品の冷却ファンの設定を「Increased Cooling」へ変更してください。

既に冷却ファンの設定を「Increased Cooling」または「Maximum Cooling」に設定されている場合は、本対策を行う必要はありません。

対象オプション

- ・ N8150-551 増設用 300GB HDD
- ・ N8150-552 増設用 600GB HDD
- ・ N8150-553 増設用 900GB HDD
- ・ N8150-602 増設用 900GB HDD

◆設定手順

- ① POST 中に <F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動します。
- ② System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Fan and Thermal Options を選択します。
- ③ Thermal Configurationメニューを 「希望する設定」に変更します。
- ④ <F12>キーを押下し、設定を保存してシステムを再起動します。

※ 冷却ファン設定の変更に伴い、お客様の運用環境や負荷によっては冷却ファンの回転数が上がる場合があります。

● EXPRESSBUILDER のヘルプについて

EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイドで記述が異なる場合は、メンテナンスガイドの記載を優先してください。

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

サーバ診断カルテの注意事項については下記の Web サイトを確認してください。

NEC サポートポータル (Windows 対応版)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=9010106809>

A) ファームウェア変更に伴う変更点

■ BIOS/Platform Configuration (RBSU) メニューの変更について

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、メニューの一部に変更があります。
下記、変更点を記載します。

(1) Server Availability メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Availability」を選択すると、「Server Availability」メニューが表示されます。
追加のオプションについて、次の表を参照してください。

オプション	パラメーター	説明
IPMI Watchdog Timer (注1)	[Disabled] Enabled	IPMI に準拠した起動時の (POST) ウォッチドッグタイマー (WDT) を有効にできます。このタイマーは、ユーザーがシステムに対して IPMI コマンドを発行すると無効になり、自動的には無効になりません。 IPMI ウォッチドッグタイマー (WDT) は、POST 中に <F9> キー、または <F10> キーを押すと停止できます。 POST 中の <F9> キー、または <F10> キーを押した以外の場合、WDT は選択された IPMI ウォッチドッグタイマーのタイムアウト期間の後にタイムアウトし、システムは選択された IPMI ウォッチドッグタイマー動作を続行します。
IPMI Watchdog Timer Timeout (注1)	10 Minutes 15 Minutes 20 Minutes [30 Minutes]	サーバーのロックアップが発生した場合にサーバーに対して必要なタイムアウト動作を実行するまでの待機時間を設定できます。
IPMI Watchdog Timer Action (注1)	[Power Cycle] Power Down Warm Boot	サーバーのロックアップによってウォッチドッグタイマーが時間切れになったときのタイムアウト動作を設定できます。

[]: 出荷時の設定

(注1) システム ROM バージョン 2.54 以降にて利用できるオプションです。

(2) Server Security メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security」を選択すると、「Server Security」メニューが表示されます。
追加のオプションについて、次の表を参照してください。

オプション	パラメーター	説明
UEFI Variable Access Firmware Control (注1)	[Disabled] Enabled	オペレーティングシステムなど他のソフトウェアによる特定の UEFI 変数の書き込みを、システム BIOS で完全に制御できるように設定します。「Disabled」が選択されている場合は、すべての UEFI 変数が書き込み可能です。「Enabled」が選択されている場合、システム BIOS 以外のソフトウェアによって重要な UEFI 変数に加えられる変更はすべてブロックされます。例えば、オペレーティングシステムが新しいブートオプションをブート順序の最上位に追加しようとする、実際にはブート順序の最下位に配置されます。注記: UEFI 変数アクセスのファームウェアコントロールが有効になっている場合、オペレーティングシステムの機能の一部が期待どおりに動作しないことがあります。新しいオペレーティングシステムのインストール中にエラーが発生する場合があります。

[]: 出荷時の設定

(注1) システム ROM バージョン 2.54 以降にて利用できるオプションです。

(3) Trusted Platform Module Optionsメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options」を選択すると、「Trusted Platform Module Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

オプション	パラメーター	説明
Omit Boot Device Event (注1)	[Disabled] Enabled	ブートデバイスイベント省略の記録を設定します。「Enabled」に設定すると、PCRブート試行の測定が無効になり、PCR[4]での測定が記録されなくなります。

[]: 出荷時の設定

(注1) システムROMバージョン2.80以降にて利用できるオプションです。

(4) Power and Performance Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options」を選択すると、「Power and Performance Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

オプション	パラメーター	説明
Energy Performance Preference(注1)	[Disabled] Enabled	このオプションを使用して、エネルギーパフォーマンス優先を有効または無効にします。ご使用の環境でベンチマークを実施し、パフォーマンスの向上を確認した上で、本オプションを有効にしてください。

[]: 出荷時の設定

(注1) システムROMバージョン2.80以降にて利用できるオプションです。

B) 誤記訂正

● iStorage NS300Ri メンテナンスガイドについて

メンテナンスガイドに誤記がありましたので、以下に訂正いたします。

■ 誤記修正

誤)

Windows Storage Server 2016 「システムログ」			
225	Microsoft-Windows-Kernel-PnP	警告	プロセス ID XXX のアプリケーション YYY がデバイス ZZZ の取り外しまたは取り出しを停止しました。 * ZZZ は対象のデバイス インスタンス名 YYY はデバイスを使用していたプロセス名 XXX はデバイスを使用していたプロセス ID が入ります。
	OS 初回起動時、RAID カード追加後の OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに記録される場合は、システム運用上問題ありません。

正)

Windows Storage Server 2016 「システムログ」			
225	Microsoft-Windows-Kernel-PnP	警告	プロセス ID XXX のアプリケーション YYY がデバイス ZZZ の取り外しまたは取り出しを停止しました。 * ZZZ は対象のデバイス インスタンス名 YYY はデバイスを使用していたプロセス名 XXX はデバイスを使用していたプロセス ID が入ります。
	OS 初回起動時、RAID カード追加後の OS 初回起動時、Standard Program Package 適用時		システム運用上問題ありません。

■ 記述追加

Windows Storage Server 2016 「システムログ」			
7031	Service Control Manager	エラー	Agentless Management Service サービスは予期せぬ原因により終了しました。 このサービスの終了は 1 回目です。次の修正操作が 60000 ミリ秒以内に実行されます：サービスの再開。
	Standard Program Package 適用時		本イベントに続けて「ソース：Service Control Manager、ID：7045」（Agentless Management Service サービスの自動的な開始）のログが記録され、その後本ログが記録されていなければ、システム運用上問題ありません。

Windows Storage Server 2016 「アプリケーションログ」			
1000	Application Error	エラー	障害が発生しているアプリケーション名：ams.exe、バージョン：x.x.x.x、タイムスタンプ：0xXXXXXXXX
	Standard Program Package 適用時		同時刻にシステムイベントログに「ソース：Service Control Manager、ID：7031」が記録されており、該当イベントが問題ないと判断できる場合は、システム運用上問題ありません。

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft (R)、Windows (R)、Windows Server (R)は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel (R)、Xeon (R)は米国Intel Corporationの登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

TEL : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

CBZ-030969-301-09

2026年 3月 第18版